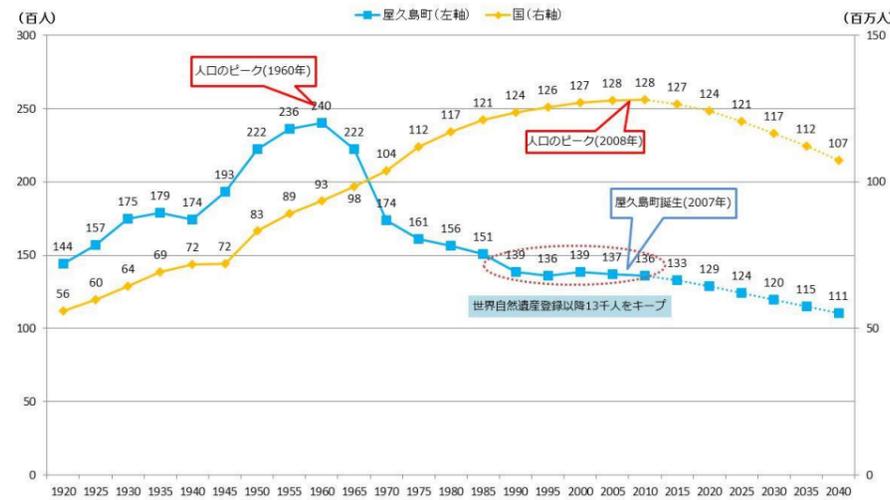


I 人口ビジョン案概要

1. 人口動向・移動分析

- 本町の人口は2010年時点で13,586人。
- 本町の人口は、1960年をピークに減少段階に突入したが、1990年以降は世界自然遺産登録を契機として13千人台で推移。県内では人口減少率が小さく、1990年比で2.0%の減少。
- 今後、老年人口は2025年まで増加し、高齢化率は35%を突破する見通し。

【総人口の推移】



出所：RESAS（地域経済分析システム）より作成（以下同様）

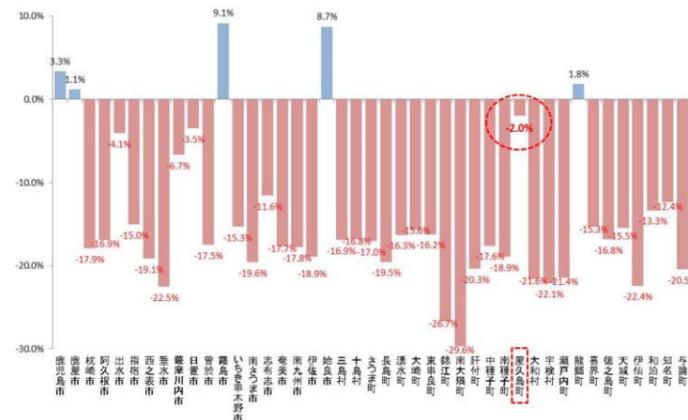
【年齢3区分別の推移】



【年齢3区分別人口割合の推移】

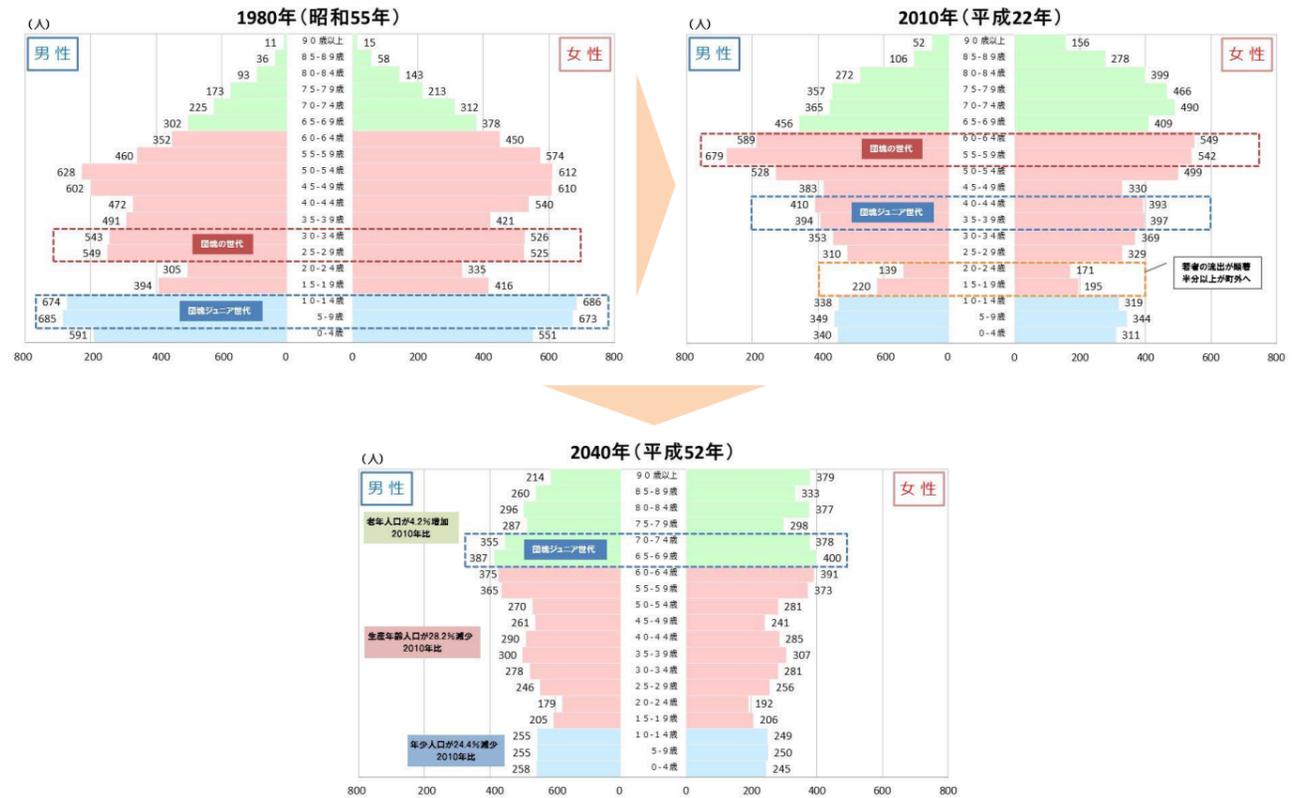


【参考：県内市町村の人口減少率(1990年→2010年)】



- 団塊世代、団塊ジュニア世代の高齢化とともに、人口ピラミッドは「ピラミッド型」から「ツボ型」へと変化し、2040年には現在（2010年）より約2割の人口減少。
- 「15～24歳」が進学や就職等により町外に流出。

【人口ピラミッドの推移】



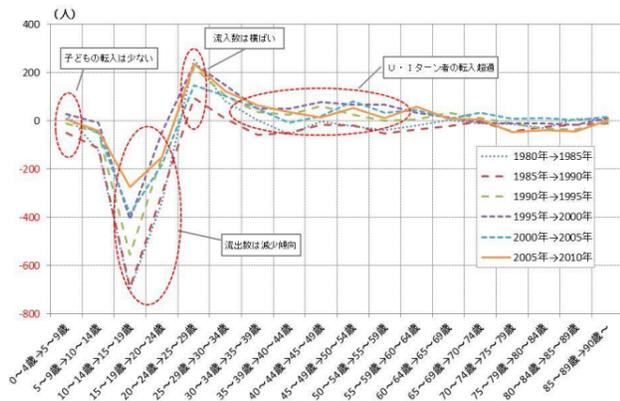
- 出生数は毎年100～140人だが、死亡数200人弱で自然減の状況。
- 転入・転出数は近年700人前後で均衡しているが、徐々に減少傾向。

【自然増減・社会増減の推移】

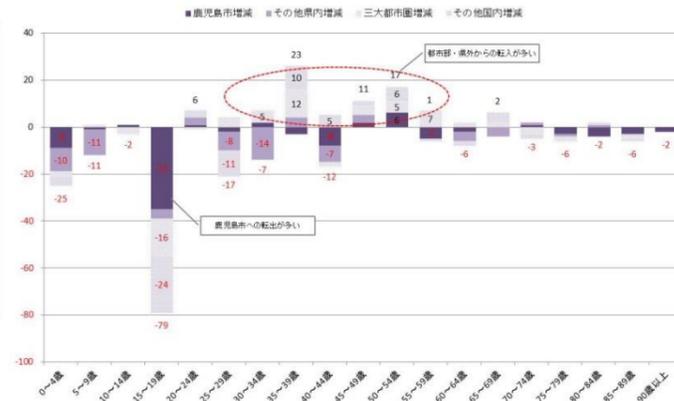


- 「10～14歳→15～19歳」「15～19歳→20～24歳」時に進学や就職等により大幅な転出超過。多くが鹿児島市への転出だが近年は縮小傾向。
- 一方、「20～24歳→25～29歳」では就職等による転入超過。また、30～50歳代では都市部・県外からの転入が多く、単身や独身者によるU・Iターン者と考えられる。

【年齢階級別人口移動】



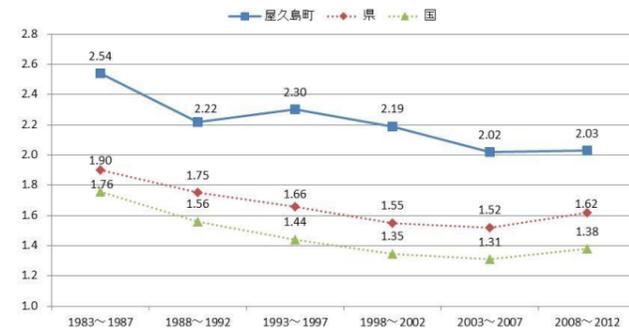
【年齢階級別転入・転出先増減(2013年)】



出所：RESAS（地域経済分析システム）より作成

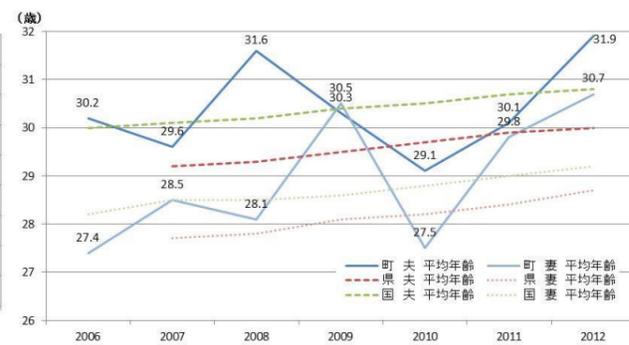
- 合計特殊出生率は2.03と国や県より高いものの、近年低下傾向にあり、人口維持に必要な2.07をやや下回る。
- 初婚年齢や未婚率が上昇しており、晩婚化の進行や、未婚者が増加。

【合計特殊出生率の推移】



出所：RESAS（地域経済分析システム）より作成

【平均初婚年齢の推移】



出所：衛生統計年報より作成

【男性の未婚率の推移】



出所：国勢調査より作成

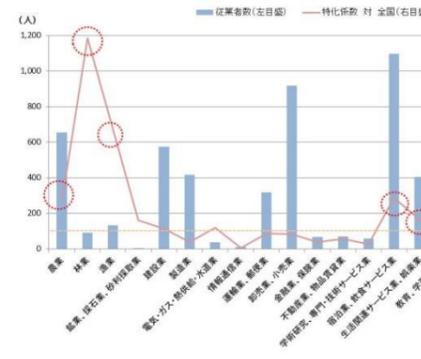
【女性の未婚率の推移】



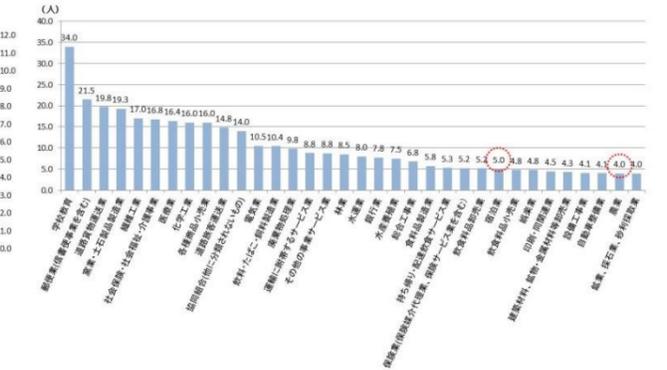
2. 就業・産業分析

- 第1次、第2次産業の事業所・就業者数が減少するなか、第3次産業の事業所・就業者数が増加している。
- 就業者数の多い「農業」や「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」で特化係数が1を超えており、「農業」や「宿泊業、飲食サービス業」は本町の基盤産業である。
- 宿泊業や農業の小規模な事業所が多く、労働生産性は低い。
- 農業は就業者の高齢化もあり担い手不足が懸念される。

【従業者数と特化係数】



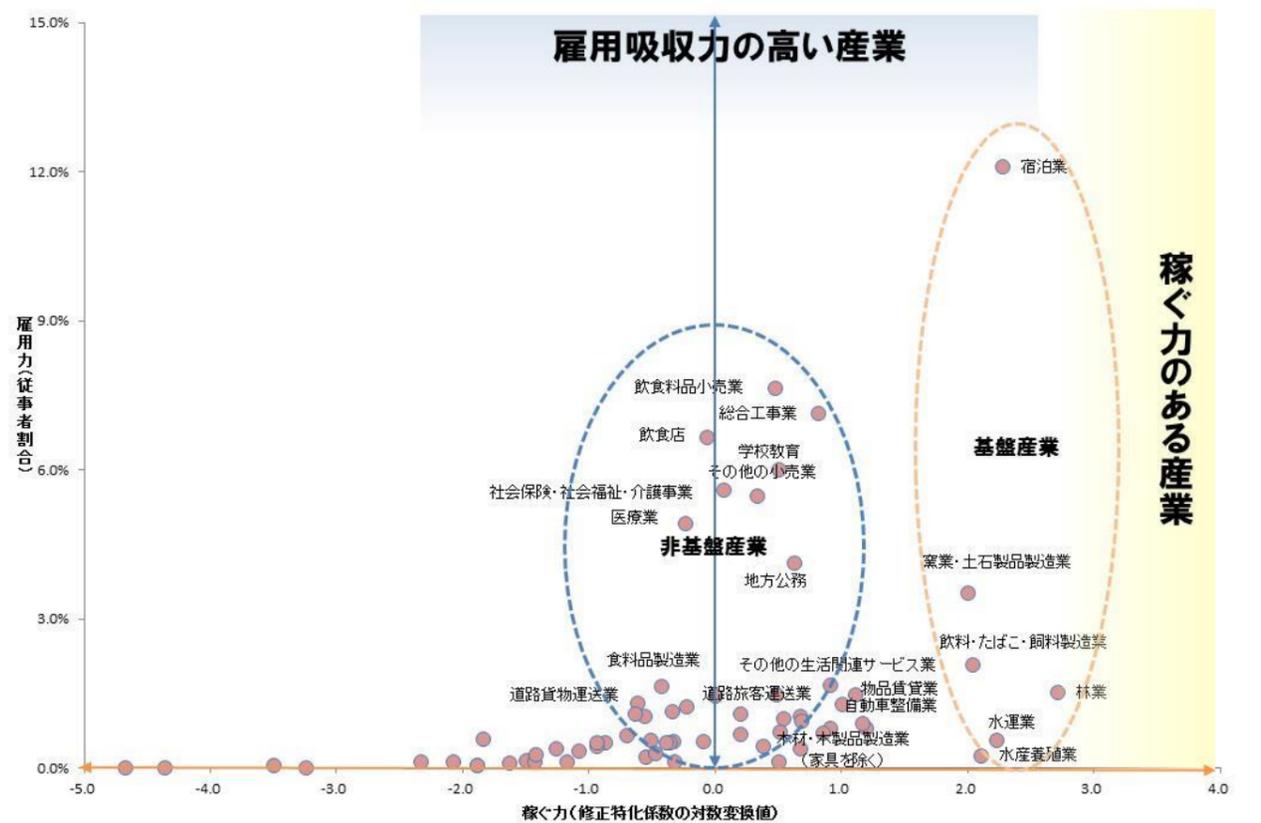
【1事業所あたりの従業者数】



出所：国勢調査より作成

出所：経済センサス活動調査より作成

【屋久島町の稼ぐ力と雇用力】



出所：総務省「地域産業構造の見方、捉え方」より作成

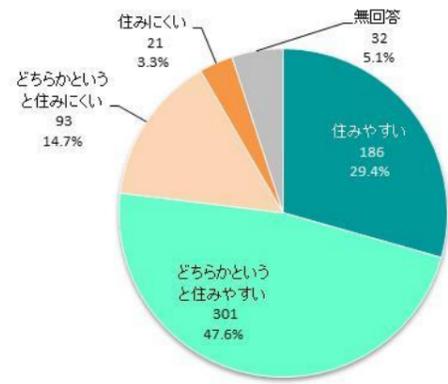
II 住民アンケート結果概要

1. 住民アンケート

(1) 屋久島町の暮らしやすさ

- 屋久島町の住みやすさは、「住みやすい（住みやすい）と「どちらかという住みやすい」の合計」が8割近いものの、生活環境では、交通や医療・福祉、子育て、物価面で評価が低い。
- 今後も屋久島町で暮らす上で必要なことは「労働条件の改善」と「医療・福祉の充実」を求める意見が多い。

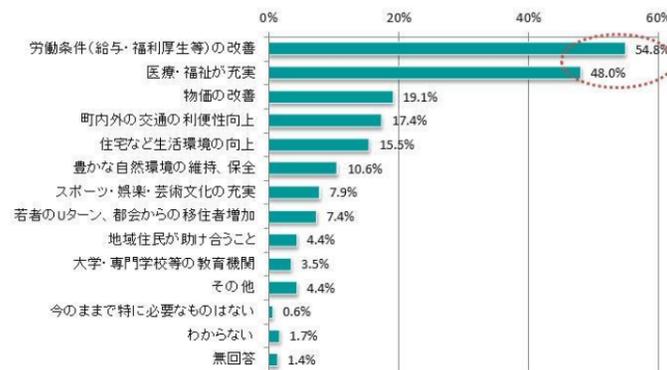
【屋久島町での暮らしやすさ】



【屋久島町的生活環境】



【今後も屋久島町で暮らす上で必要なこと】



(2) 就労状況

- 現在の仕事について「やりがい」は感じているものの、「給料等の待遇」面で満足していない状況がうかがえる。

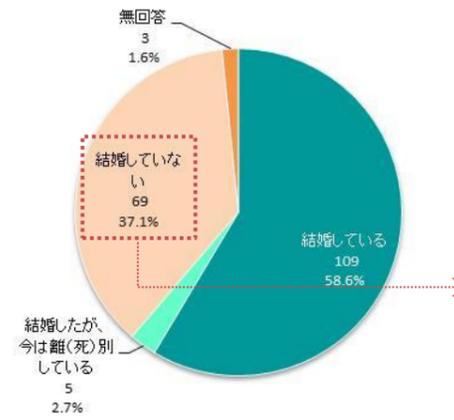
【現在の仕事の満足度】



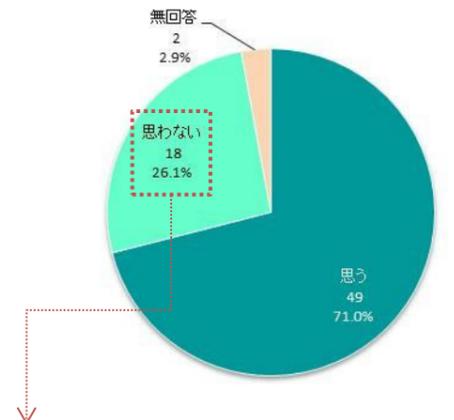
(3) 結婚・出産・子育て

- 結婚願望のない層が26.1%おり、主な理由として「独身の気楽さ」や「結婚の必要性を感じない」などを挙げている。
- 理想の子どもの数は2.5人だが、実際に予定している子供の数は1.9人とギャップが存在。その理由として「経済的な理由」を挙げる意見が多い。

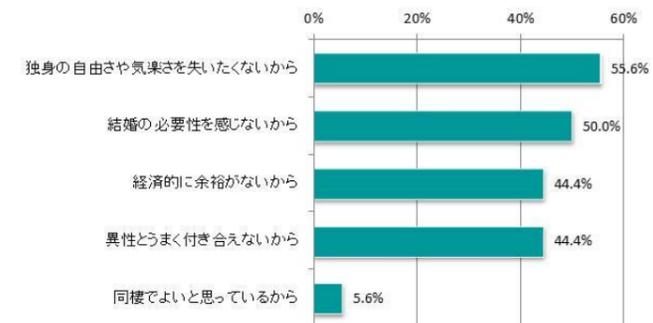
【結婚の有無】



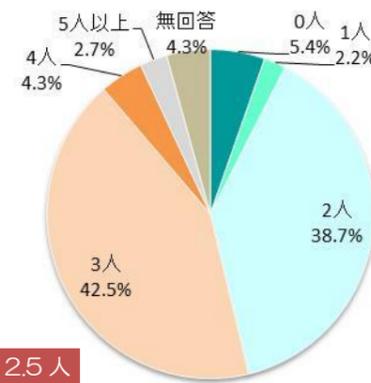
【将来の結婚願望】



【結婚したいと思わない理由】

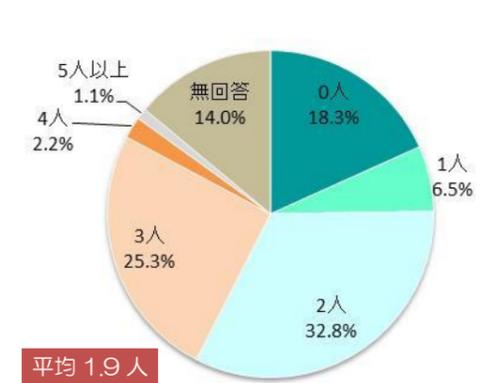


【理想の子どもの数】



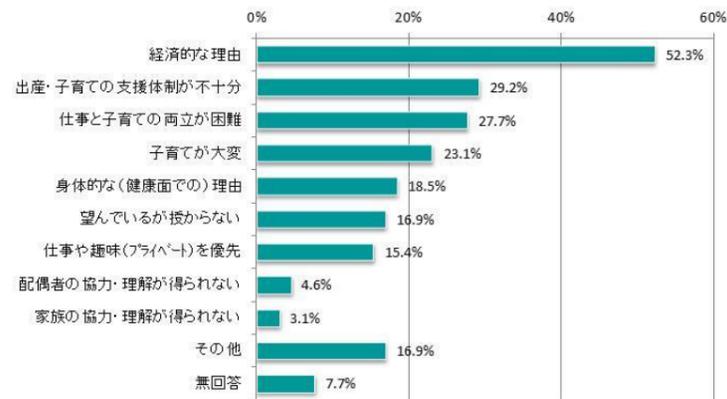
平均2.5人

【予定している子どもの数】



平均1.9人

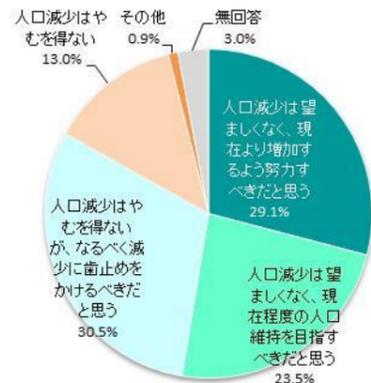
【理想より子どもが少ない理由】



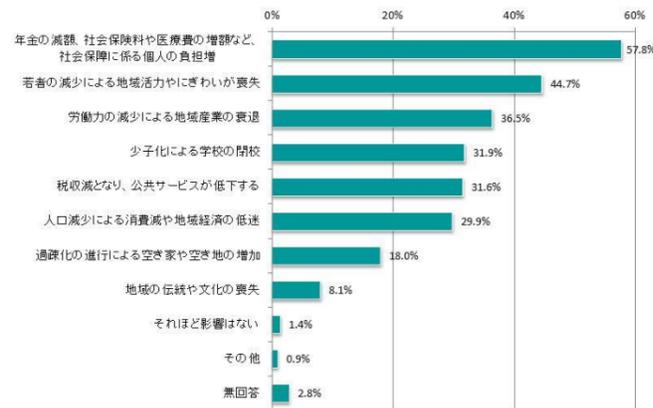
(4) 屋久島のまちづくり

- 人口減少の影響として、社会保障費等の増加による個人負担増や地域活力の低下を懸念する声が多く、人口減少をなるべく抑えてもらいたいと考えている。
- そのために、産業振興や子育て支援環境の充実を望む声が多い。

【人口減少に対する考え】



【人口減少の影響・不安】



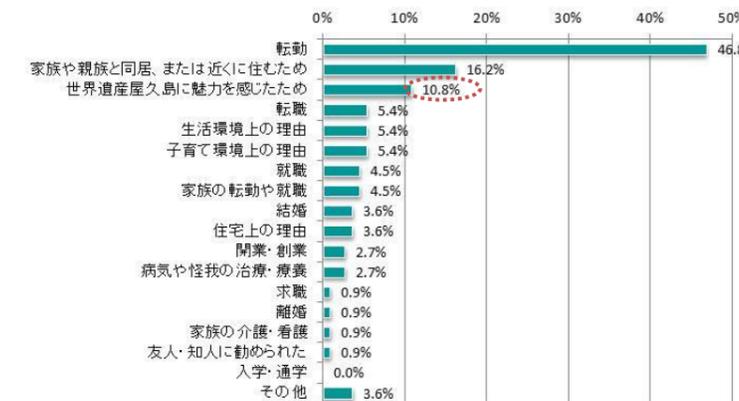
【人口減少克服に向けて重視する取り組み】

カテゴリ	件数	構成比
産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組	246	38.9%
子育て支援や働く環境の改善等により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組	157	24.8%
農山村の魅力作りや福祉の充実など、人口減少社会でも安心して暮らせる地域を目指す取組	111	17.5%
移住の促進や定住・Uターンなど人口減少に歯止めをかける取組	49	7.7%
地域資源の活用や交流拡大による地域活性化やにぎわいを創出する取組	24	3.8%
その他	10	1.6%
無回答	36	5.7%
合計	633	100.0%

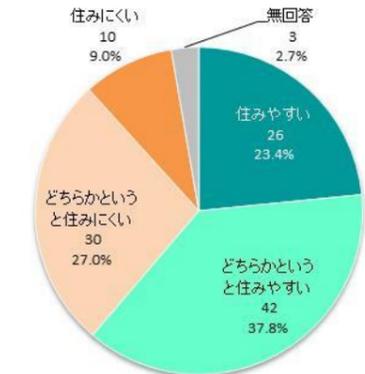
2. 転入者アンケート

- 転入理由は転勤が多いが、世界遺産屋久島の魅力で転入する方が1割いる。
- 屋久島町の暮らしやすさは、「住みやすい(「住みやすい」と「どちらかという住みやすい」の合計)」が約6割だが、「住みにくい(「住みにくい」と「どちらかという住みにくい」の合計)」も3割強となっている。
- その理由として、物価、交通の便、日常生活の不便さ、医療・福祉面が理由として挙げられる。

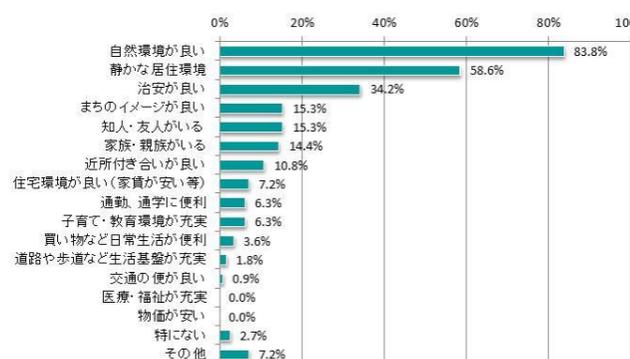
【転入理由】



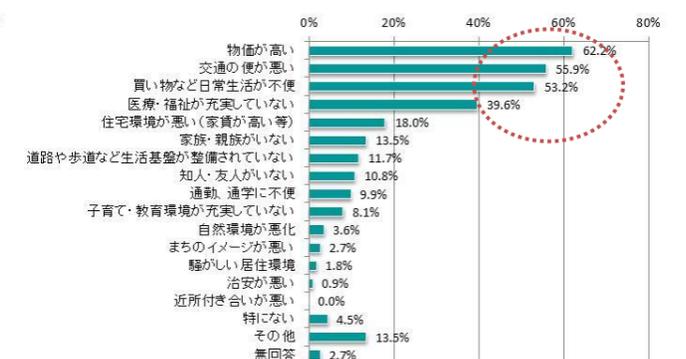
【屋久島町の暮らしやすさ】



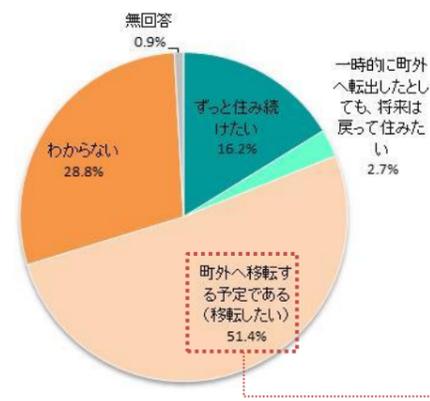
【屋久島町に住んで良かった点】



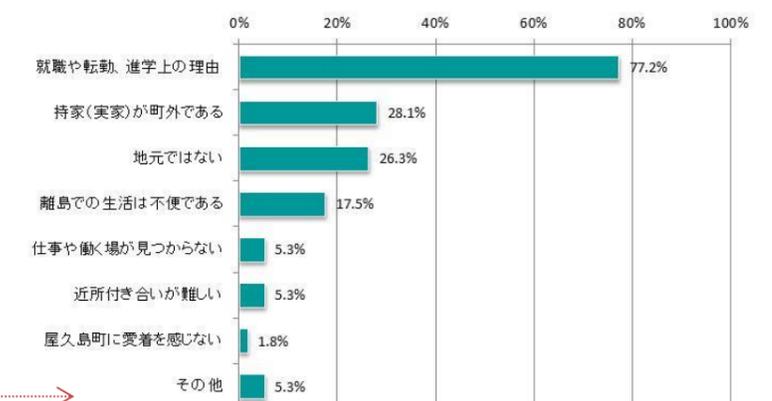
【屋久島町に住んで悪かった点】



【今後の居住意向】



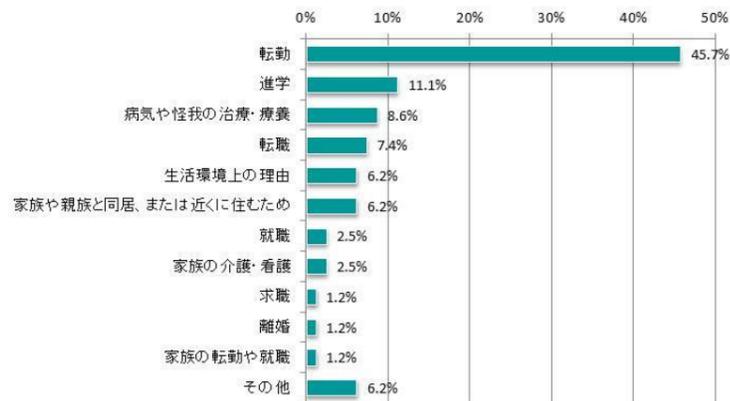
【移転理由】



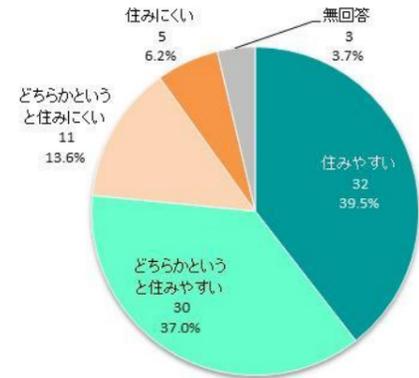
### 3. 転出者アンケート

- 転出理由は転勤や進学等が主な理由。
- 屋久島町の暮らしやすさは、「住みやすい（「住みやすい」と「どちらかというに住みやすい」の合計）」が約8割と高い。
- 屋久島町に住んで良かった点・悪かった点は転入者と同様の結果。
- 今後の帰町意向は約2割が戻りたいと考えているが、約6割が戻らないと考えており、その理由として、「地元ではない」が7割と多いが、「離島での生活が不便」も3割と多くなっている。

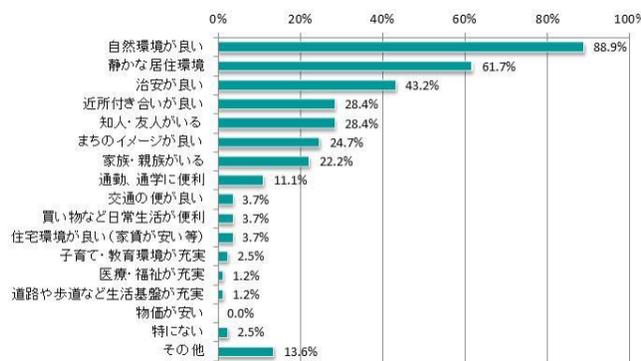
【転出理由】



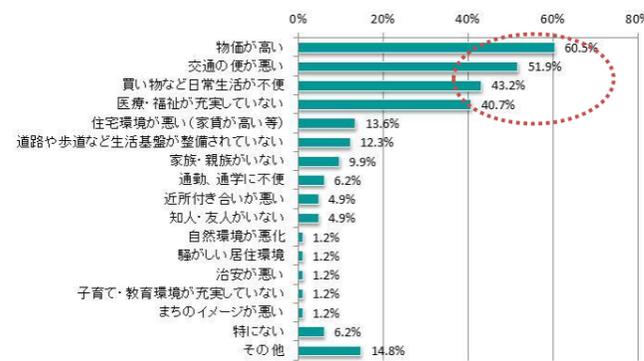
【屋久島町の暮らしやすさ】



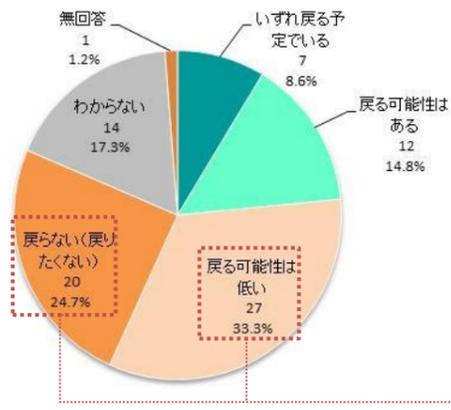
【屋久島町に住んで良かった点】



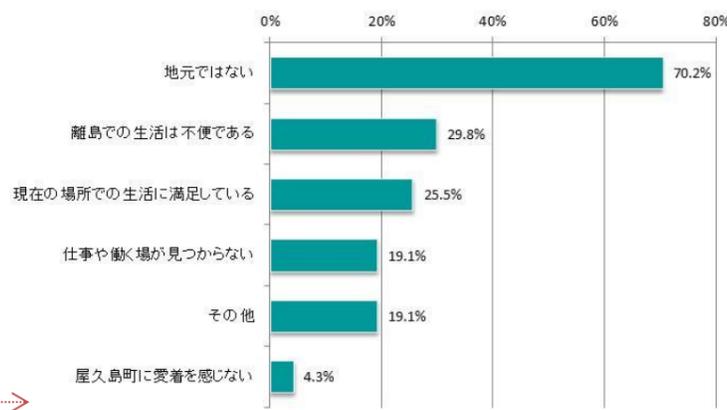
【屋久島町に住んで悪かった点】



【将来の帰町意向】



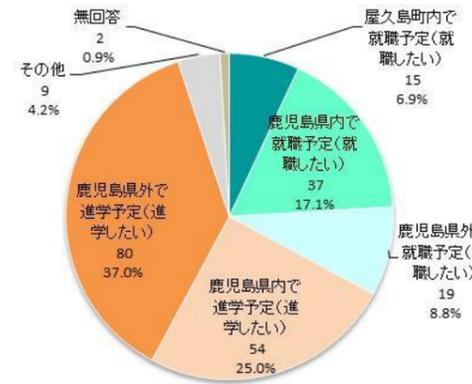
【帰町しない理由】



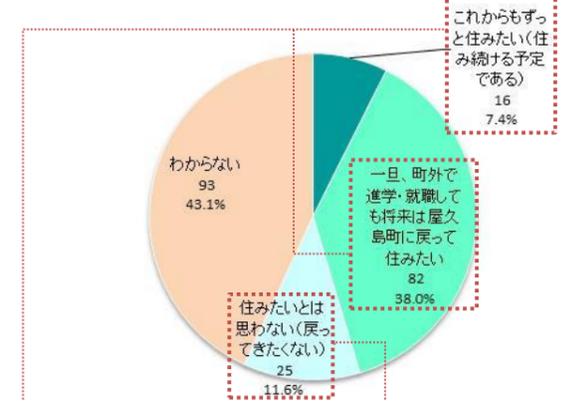
### 4. 高校生アンケート

- 卒業後、就職で屋久島町内に留まるのは1割に満たない。県外での進学・就職希望が約5割。
- 将来の帰町意向は約5割。戻りたくないは1割と少ないが、その理由として離島の不便さや仕事が見つからない等を挙げている。

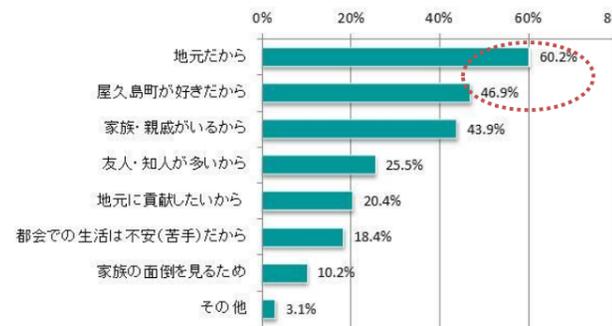
【卒業後の進路】



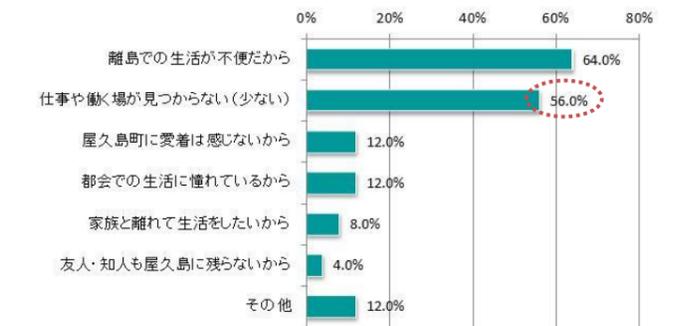
【将来の帰町意向】



【帰町したい理由】

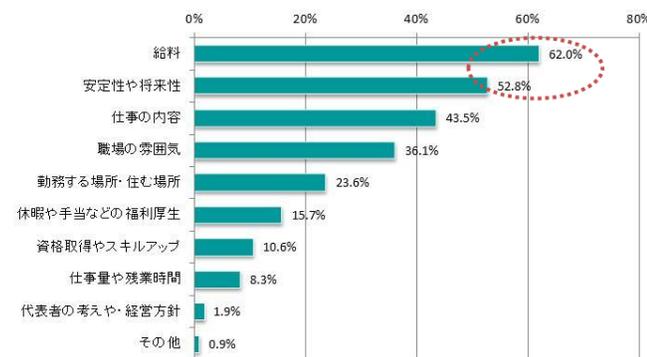


【帰町しない理由意向】

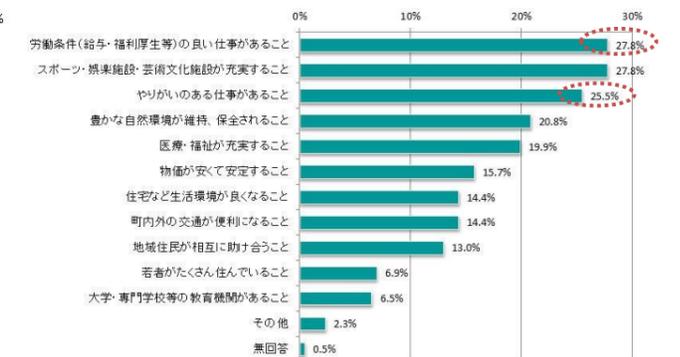


- 就職時に重視するのは「給料」や「安定・将来性」と堅実な意見が多い。
- また、将来屋久島町で暮らす上で必要ことは、労働条件の良い仕事ややりたい仕事があることを挙げている。

【就職時に重視する点】



【将来、屋久島で暮らすために必要なこと】



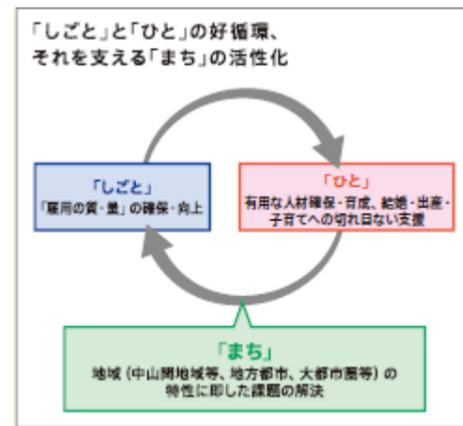
まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本的な考え方

①人口減少と地域経済縮小の克服

②まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す



基本目標

- 基本目標① 地方における安定した雇用を創出する
- 基本目標② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える
- 基本目標③ 地方への新しいひとの流れをつくる
- 基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

屋久島町における総合戦略の基本的な視点

屋久島憲章(条文のみ)

- 1 わたくしたちは、島づくりの指標として、いつでもどこでもおいしい水が飲め、人々が感動を得られるような、水環境の保全と創造につとめ、そのことによって屋久島の価値を問いつづけます。
- 2 わたくしたちは、自然とのかかわりかたを身につけた子供たちが、夢と希望を抱き世界の子供たちにとって憧れであるような豊かな地域社会をつくりまします。
- 3 わたくしたちは、歴史と伝統を大切に、自然資源と環境の恵みを活かし、その価値を損なうことのない、永続できる島づくりを進めます。
- 4 わたくしたちは、自然と人間が共生する豊かで個性的な情報を提供し、全世界の人々と交流を深めます。

屋久島からのメッセージ(条文のみ)

- 一. 世界自然遺産登録地域の保全と活用について、この島に関わる全ての団体や個人が各々の立場で参加・協力する屋久島独自のしくみを確立します。
- 一. 豊かな自然が豊かな人間性を育むという知恵とオープンフィールドミュージアムと評価される島の力を活かし、人格形成期にある日本中の青少年が一度は通過する島として位置づけ、広い意味での教育の場としての活用を図ります。
- 一. 国内の世界自然遺産地域と連携し、登録地域の役割と活用を促す運動を展開しリーダーとしての責任を果たします。
- 一. 生命の島として高く評価され、生命溢れる自然資源を観光立町の永久の資産として次世代に遺すため、その運用や観光のあり方を屋久島ルールとして確立します。
- 一. 屋久島固有の歴史、伝統文化を生かす各々の集落や団体の個性ある取り組みを継承し、この島ならではの地域づくりと産業の振興を推進します。

第1次振興計画基本構想(H21～H30年度)

基本理念

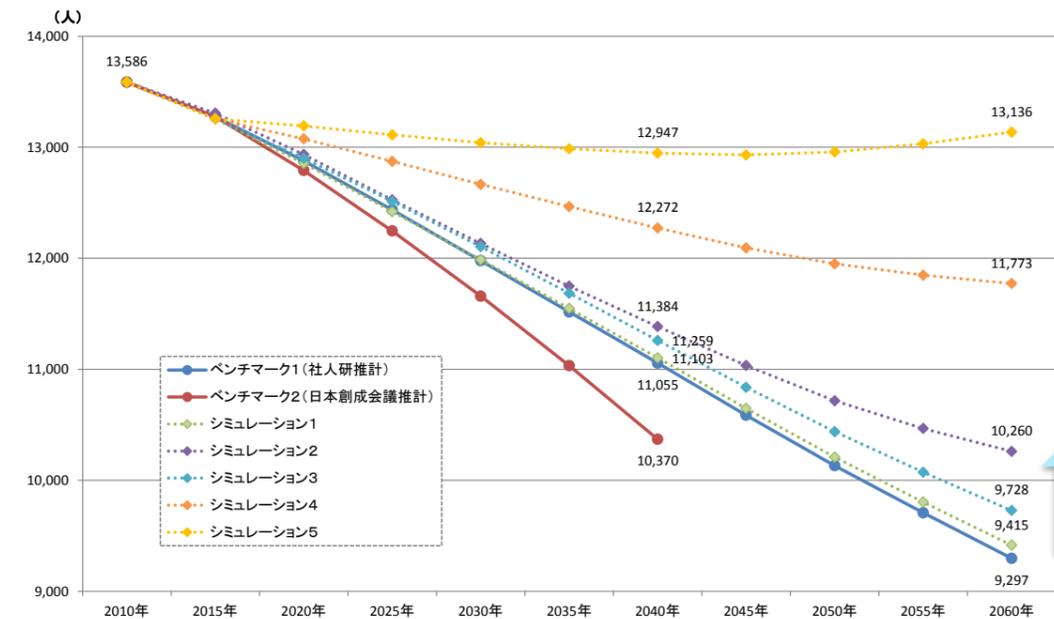
『悠久の流れの中で、自然と共に生きる知恵と多様な集落の文化がとけあい、人々の営みが循環・持続していくまち』を目指します

- 自然と共に生き、あらゆるものが循環する暮らしと営みを守り、持続させ、育んでいきます
- 多様性のある暮らし、多様な集落の文化を持続していきます
- あらゆる人が輝き、住民自らの手でつくる屋久島スタイルのまちづくりを進めていきます

人口推計シミュレーション

- ベンチマーク1では2060年の人口は9,297人(2010年比31.6%減)と推計
- シミュレーション4では2060年の人口は11,773人と減少幅が緩やかになり、シミュレーション5では2045年を底に人口増加に転じ、2060年の人口は13,136人と推計

シミュレーション	前提条件
ベンチマーク1	社人研推計準拠
ベンチマーク2	日本創生会議推計準拠
シミュレーション1	ベンチマーク1(社人研推計)において合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準2.1まで上昇すると仮定。
シミュレーション2	ベンチマーク1(社人研推計)において合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準2.1まで上昇し、かつ移動(純移動率)がゼロ(均衡)で推移すると仮定。
シミュレーション3	《出生に関する仮定》・2020年までに合計特殊出生率が2.2まで上昇すると仮定 《死亡・移動に関する仮定》・社人研推計と同様。
シミュレーション4	《出生に関する仮定》・シミュレーション3と同様。 《死亡に関する仮定》・社人研推計と同様。 《移動に関する仮定》 ・2020年から夫婦年齢「25～29歳⇒30～34歳、30～34歳⇒35～39歳、35～39歳⇒40～44歳」の3階級が <b>毎年各3組(9組)転入</b> する(15歳未満の子供が1世帯あたり1.5人、男女比1:1と仮定)。
シミュレーション5	《出生に関する仮定》・シミュレーション3と同様。 《死亡に関する仮定》・社人研推計と同様。 《移動に関する仮定》 ・2020年から夫婦年齢「25～29歳⇒30～34歳、30～34歳⇒35～39歳、35～39歳⇒40～44歳」の3階級が <b>毎年各5組(15組)転入</b> する(15歳未満の子供が1世帯あたり1.5人、男女比1:1と仮定)。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
ベンチマーク1(社人研推計)	13,586	13,275	12,878	12,436	11,978	11,516	11,055	10,586	10,132	9,707	9,297
増減比	-	-2.3%	-3.0%	-3.4%	-3.7%	-3.9%	-4.0%	-4.2%	-4.3%	-4.2%	-4.2%
ベンチマーク2(日本創生会議推計)	13,586	13,275	12,791	12,246	11,658	11,032	10,370	-	-	-	-
増減比	-	-2.3%	-3.6%	-4.3%	-4.8%	-5.4%	-6.0%	-	-	-	-
パターン1	13,586	13,256	12,855	12,420	11,987	11,548	11,103	10,647	10,209	9,803	9,415
増減比	-	-2.4%	-3.0%	-3.4%	-3.5%	-3.7%	-3.9%	-4.1%	-4.1%	-4.0%	-4.0%
パターン2	13,586	13,307	12,935	12,527	12,133	11,748	11,384	11,034	10,716	10,467	10,260
増減比	-	-2.1%	-2.8%	-3.2%	-3.1%	-3.2%	-3.1%	-3.1%	-2.9%	-2.3%	-2.0%
パターン3	13,586	13,256	12,902	12,513	12,104	11,685	11,259	10,837	10,438	10,073	9,728
増減比	-	-2.4%	-2.7%	-3.0%	-3.3%	-3.5%	-3.6%	-3.7%	-3.7%	-3.5%	-3.4%
パターン4	13,586	13,256	13,076	12,872	12,666	12,465	12,272	12,093	11,950	11,848	11,773
増減比	-	-2.4%	-1.4%	-1.6%	-1.6%	-1.6%	-1.6%	-1.5%	-1.2%	-0.9%	-0.6%
パターン5	13,586	13,256	13,192	13,112	13,041	12,986	12,947	12,931	12,958	13,031	13,136
増減比	-	-2.4%	-0.5%	-0.6%	-0.5%	-0.4%	-0.3%	-0.1%	0.2%	0.6%	0.8%

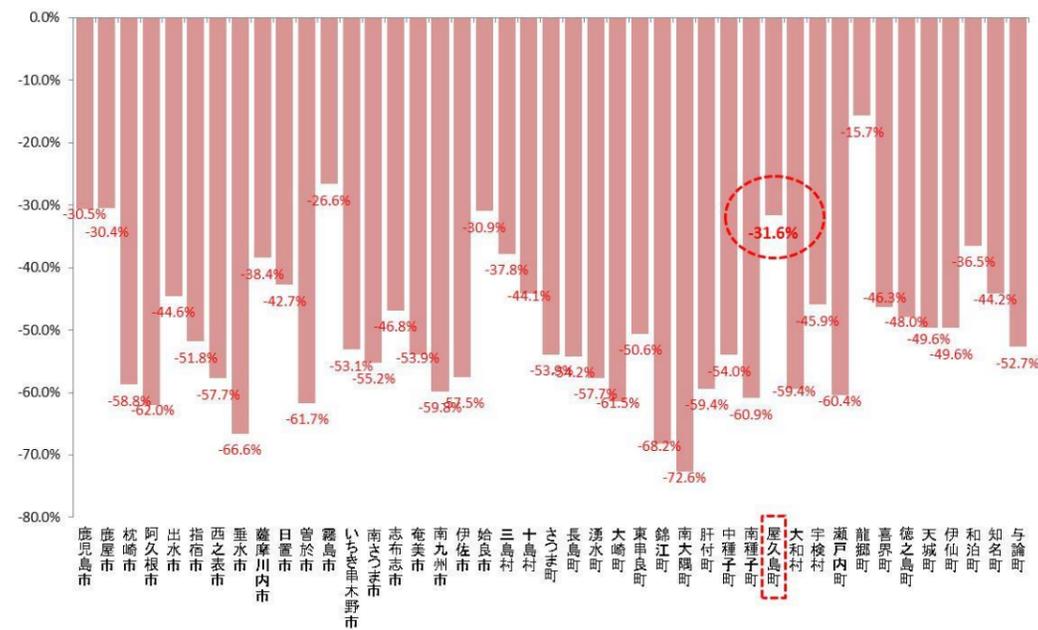
屋久島町総合戦略策定にあたっての現状と課題

人口目標について

現状・課題等

- 本町の人口は、これまで13千人をキープしてきたが、老年人口の増加により今後は人口減少が加速する可能性があり、2060年の人口は9,297人（2010年比30.7%減）になると推計される。
- 人口減少は個人負担の増加や地域活力の低下を招く可能性があり、住民は人口減少の抑制を望んでいる。  
⇒ 2040年および2060年の屋久島町が目指す人口水準は？

【参考：社人研推計による県内市町村の人口減少率(2010年→2060年)】



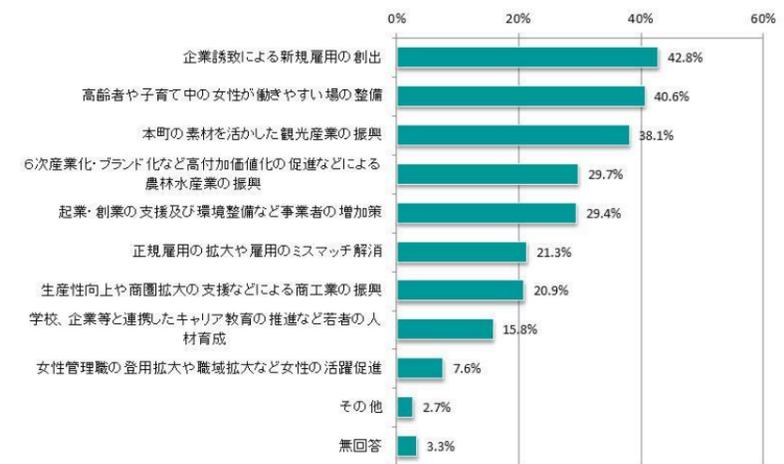
出所：RESAS（地域経済分析システム）より作成

基本目標① 地方における安定した雇用を創出する

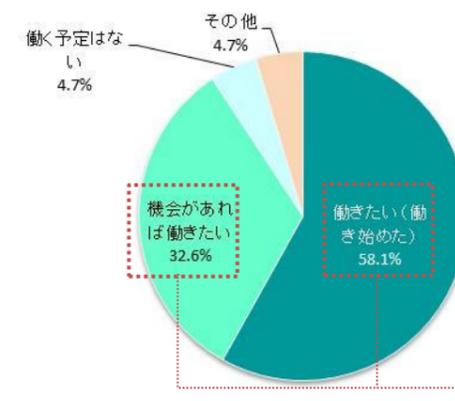
現状・課題等

- 本町の基幹産業は観光産業と農業だが、小規模な事業所が多く労働生産性は低い。また、担い手不足も懸念される。
- 労働者は給料等の待遇面の改善を望んでいる。高校生も屋久島で暮らす上で、労働条件の良い仕事を望んでいる。また、住民は仕事づくりのため、企業誘致や高齢・女性の活用、観光産業の振興を望んでいる。  
⇒ 労働条件改善のためには、外貨を稼ぐ産業の育成・振興が必要

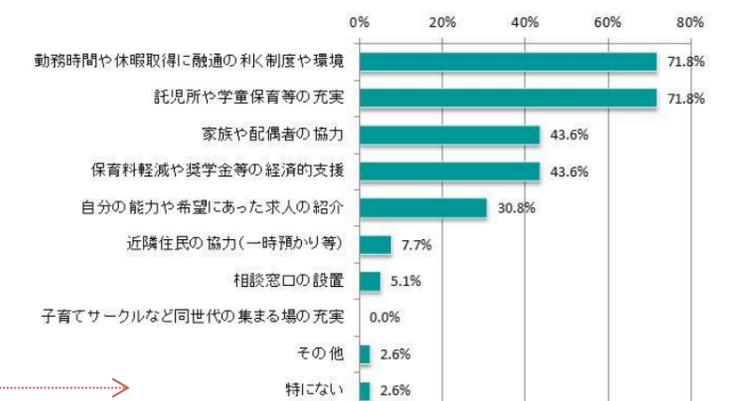
【しごとづくりに必要な取り組み】



【(出産を機に仕事を辞めた方) 今後の就業意向】



【再就職に必要な支援や取り組み】

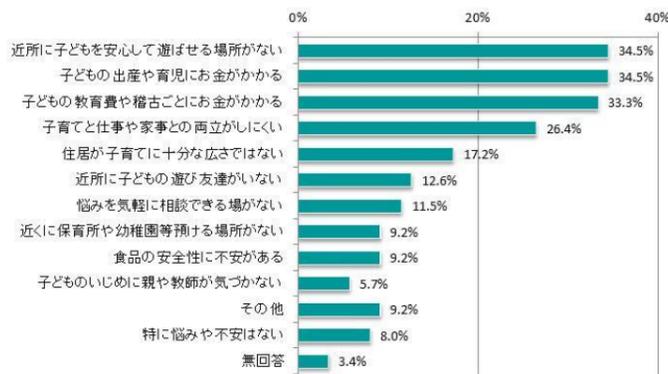


基本目標② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える

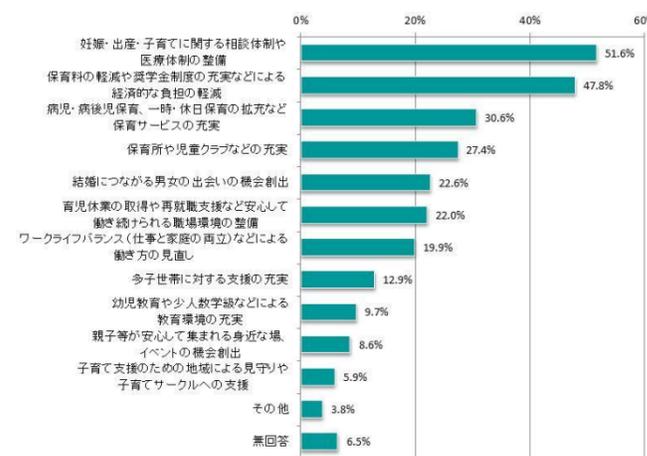
現状・課題等

- 合計特殊出生率は2.03と国内でもトップクラス（県内7番、全国18番）。一方で晩婚化や未婚者数が増加。
- 理想の子どもの数と予定している子ども数にはギャップが存在（理想2.5人→予定1.9人）。その理由として経済的理由が挙げられる。また、子育て上の不安も経済的負担の理由が多い。
- 少子化対策として医療・相談体制の整備や経済的援助が望まれている。  
⇒ 医療体制や保育サービス等の充実、経済的負担の軽減で出生数が上げられるか？

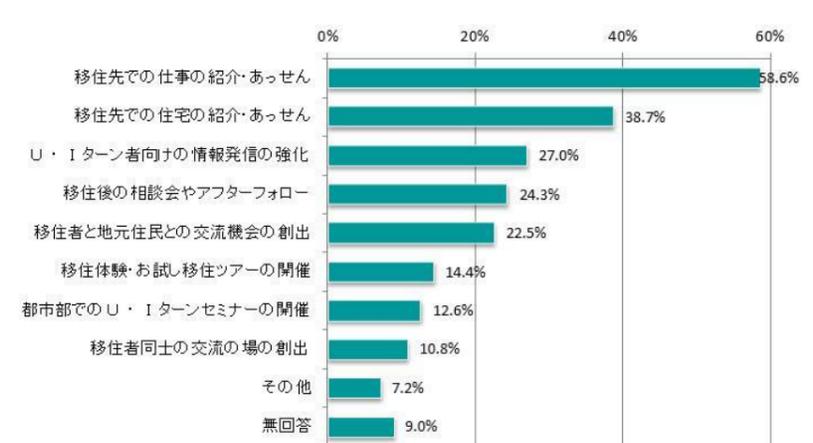
【子育て上の不安】



【少子化対策】



【移住・定住促進策(転入者)】



基本目標③ 地方への新しいひとの流れをつくる

現状・課題等

- 転入・転出数は700人前後で均衡しており、若年層が進学や就職で大量に流出するが、30～50歳代の単身(独身)のU・Iターンの流入も多い。
- 世界自然遺産屋久島に魅力を感じて転入する人が1割おり、本町の強みである。しかし、実際に移住すると物価や交通、医療・福祉面で不便と感じている。
- 高校生のUターン促進のためには、やりがいのある仕事づくりや労働条件の良い職場環境が望まれる。
- 移住促進のために、情報発信やサポート体制の充実、仕事の紹介・あっせんが望まれている。

⇒ 世界自然遺産を前面に押し出した情報発信+仕事の紹介・あっせん

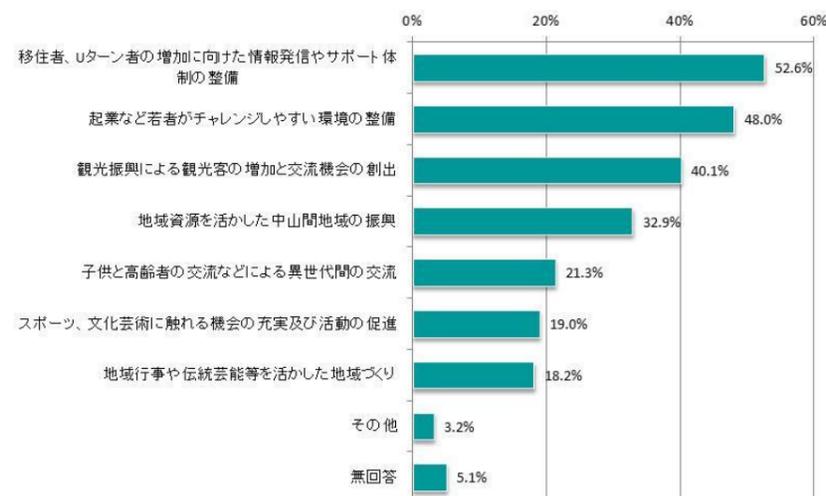
基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

現状・課題等

- 老年人口は2025年までは増加していくと予測され、その分、医療・介護に関するニーズも高まると考えられる。
- 住民の生活環境の評価では、交通や買い物の利便性、医療・福祉体制、物価面で評価が低く、転入者・転出者においても同様の評価となっていることから、改善が望まれる。
- また、今後の高齢者の増加により過疎地や条件不利地における生活上の不便を解消するニーズは高まると考えられる。

⇒ 少子高齢化社会に対応した生活サービスの提供、コミュニティの維持、空き家・空き地対策等

【ひとの流れ・交流を増やす対策(住民)】



【安心して暮らせる地域づくりの取り組み】

